

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>5. 学生の受け入れ</b></p> <p><b>【計画27】（入試事務部）</b>  本学の理念・目的及びそれに基づく「入学者受け入れの方針」を、様々な方法を通じて社会に周知するとともに、社会状況や時勢に基づく検証を行い、必要に応じ改善を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>  1. 大学の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項、本学ウェブサイトで公表する。さらに、各種の学生募集イベントやオープンキャンパスで受験生・保護者等への周知を図る。  2. 入学者選抜の方法の変更にともない、「入学者受け入れの方針」の事項の見直しを行う。  3. 高大接続システム改革に基づき、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた「入学者受け入れの方針」において、学力の3要素①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体性を持ち多様な人々と協議しつつ学習する態度に関し、入学希望者に求める能力の適切な判定ができる入学者選抜の改善を図る。  4. 高校での新学習指導要領に基づく令和7年度入学者選抜に向け、入学者選抜方法・実施方法等についての検討を行う。あわせて、共通テストでは実施せず、各大学での検討事項となった①記述式問題 ②英語の民間資格・検定等の利用についての方向性を定める。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・学力の3要素に基づく入学者選抜の実施状況  ・令和7年度入試に向けた準備・実施状況及び検証  ・記述式問題の実施、英語の外部資格・検定等の利用についての検討状況、実施状況</p>	Ⅲ	<p>1. 学生の受け入れにあたっては、学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項に明示するとともに、本学ウェブサイトにおいても公表し社会に周知を図るとともに、受験生及び関係者等に進学ガイダンスやオープンキャンパス等各種イベントで説明し周知を図った。  2. 令和5年度総合型選抜では、医療保健学部医療栄養学科の入学者受け入れの方針を、学生募集に係る入学者選抜を踏まえ、各選抜入試で定めていた選抜方法から自己推薦書、課題探求型の事前提出レポート及び面接に統一し、総合的・多面的な評価とした。また、医療保健学部医療情報学科の選抜方法を、これまでの自己推薦書及び面接から、自己推薦書、課題探求型レポート及び面接に変更した。  ・学校推薦型選抜では、受験生にわかりやすい選抜方法とするため、立川看護学部の選抜方法を、総合問題、面接及び調査書から小論文、面接及び調査書に変更した。  3. 令和4年度の入学者選抜について、総合型選抜では、これまでの医療保健学部に加え、東が丘看護学部、和歌山看護学部の両学部も令和4年度入学者選抜から総合型選抜を導入し、多様な入学者選抜をより推進し、両学部の志願者増につながった。また、医療保健学部医療栄養学科では、3月にも総合型選抜を実施したが、残念ながら学生募集の増加にはつながらなかった。  ・一般選抜においては、C日程入試の内容を、英語＋選択1科目の学力試験に調査書の評価とする見直しを行い、志願者を増加させた。  ・和歌山看護学部では、さらに3月に特別日程の入試を行い、記述式を含めた英語と小論文によって本学への進学希望の強い受験生の選択肢を広げた。  令和5年度は、千葉県内での学生募集の強化と入学者選抜の多様性を図るため、千葉県内在住・在学の高校生・既卒生を対象とした総合型選抜を実施した。  また、医療保健学部医療栄養学科及び医療情報学科の総合型選抜についても、10月、12月、3月に加え、9月及び11月にも実施した。  4. 新学習指導要領に基づく令和7年度入学者選抜の実施については、その方法・内容の検討を継続的に行った。</p>	<p><b>【年度計画27】</b>  1. 学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項、本学ウェブサイトで公開する。各種のイベント、オープンキャンパスでの周知と浸透を図る。  2. 入学者選抜の方法の変更にともない、「入学者受け入れの方針」の事項の見直しを行う。  3. 前年度に引続き、前年度計画記載の高大接続システム改革に伴う記述式問題の実施等の継続検討を行う。  4. 令和7年度入学者選抜での変更点を検討し、明確な変更点についての公表・周知を検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・令和7年度入試を念頭においた「入学者受け入れの方針」の見直し検討の状況  ・記述式問題の全学ベースでの検討と取組状況  ・令和7年度入試に向けた変更点の取りまとめと実施検討  ・英語の外部資格・検定利用に関する検討状況</p>	Ⅲ	<p>1. 学生の受け入れにあたっては、学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項に明示するとともに、本学ウェブサイトにおいても公表し、社会に周知を図るとともに、受験生及び関係者等に進学ガイダンスやオープンキャンパス、高校教員対象説明会等各種イベントで説明し、周知を図った。  2. 令和5年度実施の総合型選抜では、医療保健学部医療情報学科の選抜方法について、これまでの探究型、資格保有型に加え、面接員との対話と本人の気づきを重視する面接重視型を追加した。また、立川看護学部について、入学者選抜の多様性の観点から、自己推薦書、事前課題レポート、面接で評価を行う総合型選抜を導入した。このことにより、全学部で総合型選抜を実施することとした。  ・令和5年度実施の一般選抜では、A日程について、競合校との重複を避けること、受験の幅を広げること、何より志願者の一層の獲得を目的として、首都圏で2日間を通して実施することとした。また、医療栄養学科の選択科目に国語、数学、化学基礎・生物基礎を追加した。医療保健学部医療情報学科においては、英語の必須を廃止し、6科目からの選択受験で高得点科目重視方式に変更した。  ・令和5年度実施の大学入学共通テスト利用入試では、受験生が受験しやすい科目とするため、医療保健学部医療情報学科の受験科目を英語を含めて全科目選択科目とし、高得点科目重視方式に変更した。  ・これら入学者選抜方法の変更にともない、入学者受け入れの方針についても併せて見直しを行った。  3. 令和5年度実施の入学者選抜においては、昨年に引き続き和歌山看護学部の一般選抜特別日程にて記述式問題を実施した。令和7年度入学者選抜の変更において記述式問題を全学的に導入するための検討を継続的に行う。  4. 新学習指導要領に基づく令和7年度入学者選抜の実施については、アドミッション委員会において、説明会を開催するなど、その方法・内容の検討を継続的に行った。</p>			

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p><b>【計画28】（入試事務部）</b>            入学者選抜試験の実施内容について、学部・研究科等の特色・特徴等を踏まえた改善・充実を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            1. 入学者選抜試験問題について、「入学者受け入れの方針」に基づき適切に作成することとし、試験問題にミス等が生じないようチェック体制を徹底する。            2. 入学者選抜試験会場において、入試実施上の注意事項の徹底を図るとともに、試験監督を厳正に行う等入学者選抜試験を公正かつ適切に実施する。            3. 入学者選抜における合否判定を公正に行い、入学者選抜試験関係業務を適切に実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・入学者選抜における作問ミスの発生防止の取組状況            ・入試実施にともなうトラブル等の発生防止の取組状況</p> <p><b>【計画29】（入試事務部）</b>            学部・研究科等の入学定員に基づき、適切な入学者数を受け入れるとともに収容定員の適正な管理に努める。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            1. 学部入試における全学部・全学科の入学定員達成をめざす。そのための各入試区分での学生募集、出願者増に向けた活動に注力する。            2. 収容定員割れとなっている医療栄養学科、医療情報学科の収容定員充足を図る。            3. 収容定員の充足のため、入学定員の達成とともに退学者動向も視野に入れた取組を行う。            4. 和歌山看護学部の定員増を検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・毎年度の入学者実績の検証            ・上記にともなう収容定員の検証            ・退学者動向の把握            ・（和歌山看護学部の定員検討のための）入学定員超過率（1.15）の状況の確認</p>	<p>IV</p> <p>1. 入学者選抜試験問題のミス防止や公正な試験運用に関しては、十分に注意を払い実施し、外部の第三者機関による査読、問題チェックを経て作問者が各日程の試験問題を作成し、学内入試担当委員での最終確認を行うことにより、出題ミスの発生防止に努めた。            2. 入試実施においては、実施要項、監督要項を作成するとともに学内で教職員に対する説明会を実施し、円滑な入試実施に努めた。            3. 大学院研究科においては、学位授与の方針に合致した学びを修め得る知識と人間性を有する人材の養成を図るため、学力試験と面接、書類審査、論文（医療保健学研究科博士課程のみ）による入学試験を実施した。</p> <p>III</p> <p>1. 2. 令和4年度入学者選抜では、入試広報部を中心に積極的な学生募集に取り組み、前年に続いての度重なる新型コロナウイルスの感染拡大の中、高校訪問や講演・ガイダンス、来校型イベントを積極的に行ったが、医療保健学部医療情報学科については、残念ながら入学者が53名に留まり、3年ぶりに募集定員を下回る結果となった。            ・平成31年度、令和2年度と2年連続して募集定員未充足であった医療栄養学科は、令和元年度より高校での出張講義等にも積極的に取り組み、さらに来校型のオープンクラスやオンラインによる個別相談会等のイベントに参加する受験生の発掘やフォローアップに注力した結果、令和3年度入学者選抜においては101名の入学者となり、3年ぶりに募集定員を達成した。しかしながら、令和4年度入試においては、医療情報学科と同様に受験生個別の対応やフォローアップが十分にできなかったこともあり、入学者65名と大幅に募集定員を下回る結果となった。            ・医療情報学科、医療栄養学科については、令和5年度入試の内容の見直し、高大接続プログラムに基づいた学生募集の強化等により、募集定員充足に向けての取組を強化していく。</p>	<p><b>【年度計画28】</b>            1. 一般選抜においては、作問者の作成した試験問題を、外部の第三者機関による査読及び問題チェックを実施し、作問ミス、解答ミスの撲滅に努める。さらに入試担当委員が最終確認を行い、ミスの発生を防ぐ。また総合型選抜、学校推薦型選抜の入試においても、各学科の入試担当委員が水際のチェックを行い、ミスが生じないように努める。            2. 入試実施にあたっては、実施要項の熟読、教職員向けの説明会等により、入試実施上の注意事項を徹底する。            3. 研究科の入試については、研究科ごとに実施しており、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・入学者選抜における作問ミス等の発生防止の取組状況            ・入試実施上のトラブル等の発生防止の取組状況</p> <p><b>【年度計画29】</b>            1. 入学定員を全学部・全学科及び各研究科で充足させる。そのため、各入試区分での受験者ニーズに合った学生募集イベントを実施し、それぞれの入試区分に適用した受験生増をめざす。            2. 収容定員を念頭においた入学者確保を意識する。            3. 退学者減少に向けての取組や対策を検討する。            4. 和歌山看護学部の定員増を検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・令和4年度の入学者実績と各学科（特に医療栄養学科、医療情報学科）の収容定員の検証            ・前年度の退学者実績の把握            ・（和歌山看護学部の定員検討のための）入学定員超過率（1.15）の確保と申請年度検討</p>	<p>IV</p> <p>1. 入学者選抜試験問題の作問ミス、解答ミスの防止や公正な試験運用に関しては、十分に注意を払い実施し、外部の第三者機関による査読、問題チェックを経て作問者が各日程の試験問題を作成し、学内入試担当委員での最終確認を行うことにより、出題ミスの発生防止に努めた。            2. 入試実施においては、実施要項、監督要項を作成するとともに学内で教職員に対する説明会を実施し、円滑な入試実施に努めた。            3. 研究科の入試については、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定した。</p> <p>II</p> <p>1. 2. 新型コロナウイルスによる制限が概ね解除となり、入試広報部を中心に高校訪問や講演・ガイダンスを積極的に行った。また、入試広報部と各キャンパス連携のもと、在校生との交流や学びを体験できる企画を取り入れた来校型イベントを実施し、看護学科においては収容定員を踏まえた入学者を確保することができた。            ・令和4年度は入学者65名と大幅に募集定員を下回った医療栄養学科では、令和6年より管理栄養学専攻と臨床検査学専攻を新設し定員を管理栄養学専攻68名、臨床検査学専攻32名と分けて募集を行った。管理栄養学専攻では毎月のイベントにおける企画内容の精査と参加者のフォローアップを徹底し入学者66名と定員充足までもう少しのところまで健闘したが、臨床検査学専攻においては認可申請による広報活動開始の遅れも影響し、入学者14名と募集定員を下回る結果となった。また、医療情報学科においては受験しやすい入試とすべく総合型選抜における面接重視型の追加や一般選抜選択科目の変更などの入試改革を行ったが、入学者33名と定員を大きく下回る結果となった。            ・今後の改善としては、医療情報学科の改組を皮切りに、医療栄養学科と併せ、令和7年度入試の内容の見直し、イベントの精査、広報ツールの検討など募集定員充足に向けての取り組みを強化していく。また、特に医療栄養学科臨床検査学専攻においては認知拡大からイベント集客、出願にまでつなげることができるよう、広報活動を強化していく。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
<p><b>【計画30】(入試広報部)</b>  全学部・全学科の入学定員確保に向けて、募集活動の強化と高大連携・高大接続の構築を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>  1. 新学習指導要領に準じた出張講義の創出と高大接続関係の強化を図る。  2. オープンキャンパスや入試説明会などイベント内容の充実を図るとともに、様々な方法での情報発信の強化を図る。  3. 大学案内及び大学紹介パンフレットの刷新とSNS等情報発信の強化を図る。  4. 地域性を重視した高校訪問活動（塾等含む）の強化を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・全学部・全学科の定員確保状況及び受験競争率の確保状況</p>	<p>3. 学修成果の可視化の一環としてキャンパスプランの改修に取り組み、とくに出席状況を学生及び保証人が把握しやすくする機能を実装した。これにより退学する前に様々な視点で学生支援が行えることとなり退学者を減少させることが可能となる。令和5年度から段階的に運用予定である。</p> <p>4. 和歌山看護学部の入学定員は、平成30年度開設当初から90名としていたが、地域のニーズ等を踏まえ、他の学部と同様に入学定員を100名に増員することとし、令和5年3月8日開催の理事会・評議員会において審議・決定した。令和6年度定員増が行えるよう、令和5年度において必要な申請手続き等を進めていく予定である。</p> <p>III</p> <p>1. 高校訪問において進路探究・分野探究を目的とした出張講義の提案とその実施に注力した。結果、出張講義の依頼数も大幅に増加し、高校との連携関係は質量ともに強化された。</p> <p>2. 各キャンパスにて来校型とWEB型でのオープンキャンパスを実施した。特に対面での実施に注力し、体験授業や入試個別相談、在校生・卒業生との対話の機会を増やすなど内容の充実を図った。さらに医療保健学部看護学科では、地域貢献を目的とした公開講座に看護体験の機会を設けたところ、新たな高校層の開拓につながった。</p> <p>3. 令和5年度大学案内については、業者継続にて制作を進めた。また、医療情報学科と医療栄養学科では、新たな動画の作成と配信、特設サイトやランディングページの運用、そしてSNSでの情報発信を強化し、募集活動に力を入れた。</p> <p>4. 私立、公立共に出張講義の依頼数は増えたが既存校からの学年毎の依頼であったため、新規校の開拓は、十分ではなかった。  ・しかしながら、上記計画の達成にもかかわらず、医療情報学科と医療栄養学科については、定員確保に至らない結果となった。</p>	<p><b>【年度計画30】</b>  1. 新学習指導要領の「総合的な探究の時間」と連携・連動した内容の出張講義を実施する。  2. コロナ禍で培った経験に基づき、来校型イベントに限定せず、オンライン型と併用したハイブリッド型イベント等を実施する。また、新たな方法についても試行的に実施する。  3. 大学案内及び大学紹介パンフレットについての刷新に取り組む。  4. 高等学校や塾への訪問活動を強化し、出張講義の獲得を目指す。特に私学との連携を強化する。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・全学部・全学科の定員確保状況及び受験競争率の確保状況</p>	<p>3. 出席が思わしくない学生を、教務システム（CampusPlan）のカスタマイズ機能で監視して教職員や保護者にアラームを発するシステムを構築した。令和6年度にはテスト運用を行い、令和7年度から本運用に移行できるか検討する。退学予備軍を早期に洗い出してフォローアップする仕組みを進化させたい。</p> <p>4. 和歌山看護学部の入学定員は、平成30年度開設当初から90名としていたが、地域のニーズ等を踏まえ、他の学部と同様に入学定員を100名に増員することとし、令和6年3月19日開催の理事会・評議員会において審議・決定した。令和5年度実施した入学者選抜において、収容定員超過率を見据えた入学者とすることにより、令和7年度定員増が行えるよう、令和6年度において必要な申請手続き等を進めていく予定である。</p> <p>II</p> <p>1. 高校訪問活動を通じて「医療系教養講座」「看護医療系進学対策講座」と題した出張講義を提案し、その実施に注力した。結果、新規校も開拓され、実施校数も前年を上回り、学生募集活動における高大連携は確実に強化された。</p> <p>2. オープンキャンパス等イベントについては、各キャンパス主体で、各教育活動、学生支援、入試対策などについて、各教員、各事務職員、在校生や卒業生など一丸となって取り組み、イベント内容の充実を努めた。特に、在校生や卒業生との交流については、高校生に大変好評であった。</p> <p>3. 大学案内については、大幅な刷新に向けて、業者の選定からコンセプト設定などに取り組んだ。（令和6年6月完成予定）また、医療情報学科と医療栄養学科については、各卒業生のキャリア形成に焦点をあてたリーフレットを作成し、学生募集活動に活用した。</p> <p>4. 今年度はまだコロナ禍の影響もあり、高校訪問の活動範囲も1都6県にほぼ限定した。18歳人口の減少（2024年問題）もあり、高大連携接続のさらなる強化を目標に、特に医療看護分野への進学に力を入れている私学公立などを中心に新規開拓に努めた。しかしながら、全学部・全学科の定員の確保・充足は達成されなかった。医療栄養学科については、臨床検査学専攻を新設したことで、前年を上回る改善は図られたが、医療情報学科については昨年を上回る減数となった。この点については、令和8年4月開設に向けて新たな学科改組を構想計画し、改善を図りたい。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画31】(和歌山看護学部)</b> 入学の意思の高い優秀な学生を確保するために、多様な入試選抜の下、受験者数を維持する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 選抜区分ごとの受験生数を維持し、受験延べ人数400名を維持する。そのために、広報活動と共に大学説明会、出前授業、1日体験入学を実施する。 2. 受験者の多い県内高校との連携協定を推進し、現在の連携高校4か所を8か所まで増やす。そのために、連携高校への大学説明会、出張講義と連携校出身学生の母校訪問での交流を1回以上行うとともに、本学部教員と高校教諭との教育指導に関する意見交換会を1回開催する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・受験延べ人数、大学説明会関連行事への参加数、高校との交流回数、連携高校数、連携校との交流回数、連携校の受験者数と入学者数</p> <p><b>【計画32】(国際交流センター、研究協力部、各事務部)</b> 国際交流センターを中核として、学生・教職員に係る海外派遣・海外研修等を実施するとともに、オンラインを活用した海外大学等との交流を拡大する。また、海外からの留学生・研究生等の受入れを推進し、大学の国際化を進め、国際的視野を持つ医療人の育成に努め、地域貢献及び地域の国際化に寄与する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れを積極的に行うため、海外の大学や医療機関との交流締結を更に推進する。特に、国際交流センターでは従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間提携を実現できるよう両大学に積極的に働きかける。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況</p>	IV	<p>1. 大学説明会関連行事を6回実施した。 2. 令和4年度に新宮高校と連携協定を結び、合計8校となった。高校教諭との意見交換会として「東京医療保健大学連携校連絡協議会」を開催し、8校17名の参加、学部からは10名が参加した。出前講義10回、高校に訪問しての説明会を25回実施した。高校生の本学部での大学体験では学生も参加して実施した。 ・連携高校は8校。 ・受験延べ人数365名 ・連携校の受験人数と入学者数154名中48名 ・大学説明会・オープンキャンパス等参加人数512名 ・高校との交流回数38回（出前授業、説明会、学生懇談会、大学訪問他） ・大学説明会関連行事6回実施</p>	<p><b>【年度計画31】</b> 1. 広報活動と各高校を対象とする大学説明会関連行事を高校の希望に沿って実施する。 2. 連携協定を結んだ高校との4回以上のプログラムを実施するとともに、高校教諭と本学部教員、高校生と本学部学生との交流を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・受験延べ人数、大学説明会関連行事への参加数、高校との交流回数、連携高校数、連携校との交流回数、連携校の受験者数と入学者数</p> <p><b>【年度計画32】</b> 1. 大学間連携を行っているグリフィス大学との提携を更新する。さらにハワイ大学、シャミナード大学との大学間提携を進めるとともに両大学との研修内容の充実を図る。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況</p>	III	<p>・広く学生を募った大学説明会、入試説明会、オープンキャンパスの実施した。また各高校に出向いての出前講義・大学説明会、大学訪問を実施した。高校教諭対象の懇談会も実施した。 1. 高校教諭との意見交換会として「東京医療保健大学連携校連絡協議会」を開催し、8校17名の参加、学部からは10名が参加した。 ・高校に訪問しての説明会を23回実施した。教員の同行は内7回、高校生の参加は396名であった。 2. 連携校関係行事及び出前授業は17回実施した。高校訪問したのは9回、大学訪問は5回、連携校協議会の連携校教員授業見学が1回、学生との懇談会が2回であった。 ・受験延べ人数268名で昨年より減少した。これは18歳人口減少及び看護師希望者減少に加え、複数受験する受験生数が減少したことの影響もある。連携校の出願者97名、入学者49名で連携校との交流により確実に入学生を確保できている。 ・オープンキャンパス（学生企画含む）を3回実施し、合計参加人数高校生275名、保護者159名であった。 ・1日体験入学参加者は64名であった。</p> <p>III (国際交流センター、研究協力部) 1. グリフィス大学との大学間連携の更新は、グリフィス大学担当者の変更によって作業が遅れたためできなかったが、次年度4月中旬に更新は完了する予定である。同大学との海外研修プログラムに関しては、令和5年9月に第5回グリフィス大学オンライン研修を実施し16名が参加した。さらに令和6年3月に4年半ぶりにグリフィス大学現地研修を実施した。参加者は46名と近年で最多であった。参加学生に対する実施後アンケート調査（回答者38名、回答率82.6%）では、研修プログラム全体に対する評価は「大変満足」「まあまあ満足」を合わせると100%であった。 ・ハワイ大学、およびシャミナード大学との提携は、両大学の教職員スタッフの大幅な変更などにより、本学との研修プログラムは一時休止状態となっている。今後どのような連携やプログラムを実施できるか、両大学と模索中である。 ・中国の燕山大学からの申し入れを受けオンライン交流会を令和5年12月に実施した。両大学各10名ずつ、20名が参加した。</p>			

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画	令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分			評価区分			
	III	<p>2. 国際的な講演会に関しては、リレー講演会「世界の医療を知ってみよう」をテーマとして医療保健学部看護学科と共催した。令和4年12月から令和5年2月までの間に、全学を対象として、オーストラリア、ニュージーランド、イギリスの医療に関する講演会を3回オンラインにて実施した。学生、大学院生、専攻科生、教員が、多数参加して非常に好評であった。各回の参加者数は、1回目リアルタイム86名/オンデマンド67名、2回目リアルタイム61名/オンデマンド42名、3回目73名/オンデマンド22名であった。</p> <p>(世田谷事務部)</p> <p>・9月にオーストラリアのグリフィス大学（学生6名/教員3名）、3月にハワイのシャミナード大学（学生4名/教員2名）とオンライン交流を実施。</p> <p>(立川事務部)</p> <p>・オーストラリア研修への参加は、4年生1名だけであったが、ハワイ研修については、学長裁量経費の補助もあったため、参加者は13名（3年11名、1年2名）であった。</p> <p>(千葉事務部)</p> <p>・東京医療保健大学総合研究所の依頼に基づき、ヘルスシステムデザインユニットが主導する産科領域の働き方改革に関する研究における、海外事例の収集と日本への適用方策を検討するために、千葉看護学部の教授1名が、3/20-22の期間で台湾医療施設を視察した。</p> <p>・9月にオーストラリアのグリフィス大学（研修参加者学部生1名/教員2名支援教員）、3月にハワイのシャミナード大学（研修参加者学部生2名・大学院生1名・教員1名/教員2名支援教員）とオンライン交流を実施。「世界の医療ケアを知ってみよう！」との企画のもと、リレー講演会の開催（3回）を支援した。</p> <p>(和歌山事務部)</p> <p>・学術交流協定を締結しているベトナムナムディン大学の卒業生（介護士）他との交流会を開催、学生13名が参加し国際的な看護や文化、海外の医療等を学び、有意義な異文化交流を行った。</p>		IV	<p>2. (国際交流センター、研究協力部)</p> <p>令和5年度には4回の国際的な講演会を実施した。9月にバン格拉ディシュの医師S. A. ナイーム氏を五反田キャンパスに招いて、対面およびオンラインの特別講演会「バン格拉ディシュの医療・介護の現状と未来」を実施した。申込者数133名。またオンラインによる3回にわたるリレー講演会を以下の通り実施した。（申込者数173名）10月：「アメリカの医療事情」（講師：安西耕氏）、11月：「国際比較からみる女性特有の健康課題」（小川真里子氏）12月：「ベトナムの医療現場から考える国際医療協力」（講師：森山潤氏、勝山なおみ氏）申込者数173名。</p> <p>(五反田事務部)</p> <p>国際交流センター主催のオーストラリア現地研修に医療保健学部看護学科より学部生9名、教員2名が参加した。</p> <p>(世田谷事務部)</p> <p>・9月に台湾秀傳医療グループの病院、老人ホーム、産後ケア施設を訪問（医療情報学科、学生5名/教員2名）</p> <p>・3月にオーストラリアのグリフィス大学研修（医療情報学科、学生6名/教員1名）</p> <p>(千葉事務部)</p> <p>「世界の医療ケアを知ってみよう！」リレー講演会（3回）の参加推奨を行った。</p> <p>「バン格拉ディシュの医療・介護の現状と未来」特別講演会の参加推奨を行った。</p> <p>中国の燕山大学との初オンライン交流参加学生を推薦した。</p> <p>年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。実施についてまとめ、成果共有を2024年前期に行う予定である。</p> <p>(和歌山事務部)</p> <p>・学術交流協定を締結しているナムディン大学の卒業生で医療従事者2名（ベトナム人介護士）と学部生5名、大学院生1名が参加し交流会を開催した。</p> <p>・オーストラリア海外研修には、学生4名、引率教員1名が参加した。</p>		